

[マイコプラズマ肺炎について]

<ポイント>

- 若い人（60 才以下）の人がかかる肺炎の約 60%がこれ。
- 痰の少ない咳（カラ咳）が、会話をした時を中心に頻回に出る。
- 1～3 週の間隔（潜伏期）をおいて、家族内で感染することもある。
- 自然でも改善するが、ひどくかかると 2 ヶ月くらい咳が残ることがある。
- 特定の抗菌薬が必要。時に抗菌薬の効きにくい耐性マイコプラズマがある。
- 発熱や咳がひどいうちは、出席停止。咳が軽くなれば出席可能、証明用紙は不要。



<症状>

- 一般には 5～12 才の学童に多い。発熱と、少し遅れて咳がひどくなる。
- 上の兄弟がいると 1～4 才の子もかかることがある。
- 発熱がある場合は、夕方から夜にかけて発熱し、朝には平熱に戻るというパターンのことあり。（特にお子さん）
- 発熱がなく、咳だけのまま肺炎になる人もいる。（無熱肺炎ともいわれる）
- ひどい咳が日中、会話時や温度差で出るが、寝ている間は少ない。

<検査>

- 1). 咽頭粘液からの迅速検査…………… 陽性率 50%（15 分で判明）
- 2). マイコプラズマ LAMP（ランプ）法……マイコプラズマの遺伝子を調べる。
陽性率 80%（2 日かかる）

<治療>

- マクロライド系の抗菌薬（クラリス＝クラリシッド＝クラリスロマイシン、ジスロマック＝アジスロマイシン）が第 1 選択薬。
- これらの薬剤が効かない（＝耐性）のマイコプラズマには、ミノマイシン（8 才以上）やオゼックスが有効です。
- メイアクト、フロモックス、ワイドシリンなど、扁桃炎や中耳炎に使われる抗菌薬はマイコプラズマには「無効」です。
→ つまり、初期の抗菌薬の選択ですぐ治るか、長びくか決まることがあります。
- ひどくなってから治療を開始すると、咳が鎮まるのに 4～5 日かかります。それまでは咳止めを併用してしのぎましょう。初期治療で 48 時間たっても解熱しない場合は、薬剤を変更します。